

2007年度日本政府(文部科学省)奨学金留学生選考試験

学科試験 問題

(日本語・日本文化研修留学生用)

日 本 語

注意 ☆ 試験時間は120分。

☆ 答えは全て解答用紙に記入すること。

I _____に入るもっとも適当なものをA～Dの中から一つ選んで、その記号を解答用紙に書きなさい。

問1 [れい] 日本には来年の3月_____いるつもりです。

A に B まで C でも D で

1 この道をまっすぐ行って、公園のところ_____左に曲がってください。

A に B まで C で D へ

2 歩いて、大学まで15分くらい_____着くと思います。

A が B に C へ D で

3 この本、彼女_____あげてくれないか。

A に B が C を D から

4 からだをこわす_____ダイエットを続けるべきではない。

A だけ B まで C よう D でも

5 この程度の問題でも、日本の歴史を知らない人_____は難しいだろう。

A にとって B によって C にそって D にかぎって

6 委員会をはじめ_____、委員長から趣旨しゆしの説明があった。

A において B にあたって
C にかぎって D に応じて

7 いちど始めた_____、最後までやり通すべきだ。

A からといって B からは
C からして D からというもの

8 この卵は、古くなっているので、_____ ほうがいいですよ。
A 食べる B 食べた C 食べない D 食べなかった

9 どんなに欲しいものでも、人からお金を_____ まで買うつもりはない。
A 借りる B 借りて C 借りた D 借りよう

10 漢字_____ か、ひらがなやカタカナもまだ書けない。
A だけ B さえ C まで D ばかり

問2 [れい] 飛行機に乗り遅れたら_____ です。急ぎましょう。
A とても B ほんとう C たいへん D すごく

1 クーラーの下で寝ていたら、夏風邪を_____。
A かかってしまった B うつってしまった
C ひいてしまった D はいってしまった

2 最近、気持ちが_____、何もする気が起きない。
A 減って B やせて C 下がって D 沈んで

3 親でも自分の子供_____ の手紙を読むべきではない。
A 向け B 宛 C 用 D 様

4 以前は台風が近づいてくると、_____ を釘で固定したものだが、今はアルミサッシになって、そのようなこともなくなった。
A 障子 B 襖 C 雨戸 D 押入

5 携帯電話は、人々の_____ 手段を大きく変えた。
A 交通 B 通信 C 交換 D 通行

6 仕事に就かないニートや定職に就かない_____の増加が社会問題になっている。

- A スターター B ブリーダー
C フリーター D ファイター

7 「自然にやさしい」商品として、_____商品が売れている。

- A エコ B エゴ C ペア D ベア

8 この仕事から_____を洗って、何か新しいことを始めたい。

- A 顔 B 手 C 頭 D 足

9 いつまでも_____して仕事を始めないから、仕事がたまっていくのだ。

- A ずるずる B ぐずぐず C ばらばら D どろどろ

10 事故のときのことは、_____としか覚えていない。

- A ゆっくり B ぼんやり C すっきり D きっぱり

問3 [れい] 吉田:これは、みんなでしたほうがいいと思います。

山口:_____。やはりあなたがひとりでするべきです。

- A そうでしょうか B そうしましょうか
C そのはずです D その通りです

1 田中:夏休みには、海外へ_____。

山田:今のところ予定はありません。

- A おいでになりますか B いらっしやいますか
C おこしになりますか D ごらんになりますか

2 床屋^{とこや}：きょうはどのように_____。

客：いつもより少し短めに切ってください。

- A うかがいましょうか B いただきましょうか
C いたしましょうか D まいりましょうか

3 司会：それでは、これより吉田先生の記念講演に移ります。お願いいたします。

吉田：私のためにこのような場を設けていただき、光栄^{こうえい}に_____。

- A 存^{ぞん}じます B 存じ上げます
C 申^{もう}します D 申し上げます

4 田中：ご家族の皆様にも、どうかくれぐれも_____。

山田：有り難うございます。

- A よろしくお伝え下さい B よろしくお知らせください
C うまくお伝えください D うまくお知らせください

5 課長：今度のプロジェクト、今の会議で大幅に予算削減^{さくげん}が決まったので計画変更が必要だ。

部下：_____、いちから全体を見直してみます。

- A それでも B それなら C それから D それにも

6 田中：あなた、とても日本語がお上手^{じょうず}ですね。

ワン：いいえ、_____です。

- A べらべら B わざわざ C すらすら D まだまだ

7 田中：お父さんのお加減^{かげん}いかがですか。

吉田：_____、状態も落ち着いて、まもなく退院できることになりました。

- A おかげさまで B あいかわらず
C あいにく D ただでさえ

8 店員：同じ形で、色違いのものもございますが、いかがですか。

客： ああ、そう。じゃあ、そちらも _____ わ。

A くださる B いただく C さしあげる D くれる

9 アリ：コンビニは本当に便利ですね。買い物だけじゃなく、荷物を送ったり
もできるんでしょう？

山本：そうですね。①、海外へ荷物を送るのは、まだできないんじゃない
ですか。

アリ：そうですね。②、夜も利用できるのは便利だから今度使ってみま
す。

山本：そうですね。

① A すなわち B たとえば

C ただ D なお

② A それでも B それには

C それほど D それから

Ⅱ—1 次の文を読んで、あとの問1～9に答えなさい。答えはA～Dの中から
もっとも適当なものを一つ選んで、その記号を解答用紙に書きなさい。

私は大学の教師をしているので、年度末になるとよく入試の試験監督かんとくをします。口
頭試問とうしもんにもよくかり出されます。受験生たちは、それぞれの学校の制服を着て、試験
官の前にすわって、たいていがちがちに緊張きんちやうしています。

そういうときに、「本学を志望した動機は何ですか？」というようなありきたりの質
問(1)をすると、たいへん困ったことになります。

受験生の方は、まさに「そういうありきたりの質問」に対する答えを用意して、準
備万端びばんたんおこたりなく試験会場に乗り込んできているわけですから。もう「しめた」と
ばかりに「暗記してきた答え」を棒読みぼうよみし始めます。眼を中空(2)に泳がせながら、必死
で頭の中に書いてある文章を読み上げます。(3)

それを数分間聴かされていると、試験をしている私の方は、なんだか悲しい気持ち
になってきます。⁽⁴⁾

そういう気持ちには、なってみないとわからないでしょうが、ほんとうに索漠たる
ものです。場合によっては悲しみをとおこり越して、憎しみに近い感情を抱くことさえあ
ります。⁽⁵⁾

それは、この人の語っていることばがまったくこちらに向かっていないからです。
少しも私に触れてこないからです。

ことばの意味がよくわかるということと、ことばがこちらに触れてくるということ
はまったく別のことです。(中略)

ここでこの人の話を聴いている試験官は誰でもいいんです。私である必要なんかな
⁽⁶⁾い。私がここにいる必要がない。「ここにいるのはあなたである必要がない」というこ
とを、いわば耳元でかなり立てられているような気がするから、こういう「読み上げ」
的な面接試験は、深い徒労感を試験官にもたらすのです。

逆に、面接試験をしていて愉しい受験生というのがいます。

それは、「その場で思いついたこと」をしゃべってくれる人です。

「その場で思いついたこと」というのは、こちらが差し出した予想外の質問とか、
話の流れでふと出てきた話題などがきっかけで、その場で生まれたものです。

⁽⁷⁾こういう話は、内容にかかわらず、試験している方もされている方も、_____。
⁽⁸⁾とりあえず、そこで話されていることについては、語っている受験生も、そのきっか
けをつくった試問者も、どちらもその生成に関与しているからです。その誕生に立ち
会っている。そこには、ある種の「かけがえのなさ」が感じられます。そういうとき、
面接の場はずいぶんなごやかになります。私がここにいたために、このことばは生ま
れた……という達成感のようなものを感じることができるからです。

(内田 樹 『先生はえらい』より、一部中略した)

問1 下線部 (1) は、ここではどのような質問ですか。

- A 学生を緊張させる質問
- B だれでも思いつく質問
- C 答えるのが難しい質問
- D 大学とは関係のない質問

問2 下線部 (2) は、ここではどんな気持ちですか。

- A 「こわい」という気持ち
- B 「こまった」という気持ち
- C 「うまくいった」という気持ち
- D 「つかれた」という気持ち

問3 下線部 (3) は、ここではどのような様子のことですか。

- A まっすぐ相手を見ていないこと
- B 涙でものがよく見えないこと
- C 眼をはげしく動かすこと
- D 書いてある文字をじっと見ること

問4 下線部 (4) とありますが、なぜ悲しくなるのですか。

- A 聴いていても学生の話がほとんど理解できないから
- B 学生の言葉が筆者に対して話されたものだと感じられないから
- C 学生の答えが、筆者が予想していた答えとは違うから
- D 学生が先生の指示を無視して話をするから

問5 下線部 (5) は、ここではどういう意味ですか。

- A 悲しみさえ感じないで
- B 悲しみはほとんど消えてしまって
- C 何度も悲しくなって
- D 悲しみよりももっと強い感情が生じて

問6 下線部 (6) とありますが、なぜ誰^{だれ}でもいいのですか。

- A 試験をする人ならだれでも、学生に同じ質問をするから
- B だれが試験をしても、学生の成績は変わらないから
- C 試験官はだれも学生の話の内容に触^ふれないから
- D 聴いている人がだれであっても、学生は同じことを話すから

問7 下線部 (7) は、どのような話題ですか。

- A 話をしているうちに偶然に出た話題
- B 話をしていれば出るのが当然の話題
- C 話を続けるためになんとか作った話題
- D 話をする前から準備してあった話題

問8 下線部 (8) には、どの言葉が入りますか。

- A がっかりします
- B ほっとします
- C うんざりします
- D かつとします

問9 下線部 (9) は、ここではどのようなことを言っていますか。

- A 自分が言いたいことをはっきりと言うことができたということ
- B 自分が相手と親しくなれたということ
- C 自分がいなければその話は生まれなかったはずだということ
- D 自分が相手を助ける必要がないので安心だということ

II—2 次の文章は齋藤希史^{さいとうまれし}等が東大教養部で行った講義を書き下ろしたとき、その講義の目的を述べたものの一部です。これを読んで、あとの問1～問8に答えなさい。答えはA～Dの中からもっとも適当なものを一つ選んで、その記号を解答用紙に書きなさい。

英会話学校に通うと異文化コミュニケーションなるものができるらしいのだが、⁽¹⁾そしてそれができるのはよいことであるらしいのだが、さて、異文化コミュニケーションって、いったい何なのだろう。人と人の付き合いの中で、それぞれ生まれ育った場所が遠く離れていて、母語も異なっていれば、文化の違いを感じることもあるだろう。相手の文化を理解し、自分の文化を説明できれば、たしかにコミュニケーションが円滑^{えんかつ}に進むこともあるだろう。でもそれは、相手と自分を、それぞれの文化の帽子⁽²⁾をかぶせて理解してしまう、もっとも安直なコミュニケーションとも言えるのじゃないだろうか。むっとするようなことや、わかってもらえないことがあっても、文化の違いが説明できればそれで互いに了解してしまうのだろうか。そういうコミュニケーションを重ねていくと、しだいに相手を文化の殻^{から}に閉じ込め、自分も文化の殻に閉じこもることになりはしないのだろうか。

もちろん、処世術^{しよせいじゆつ}というか交際術^{かうさいじゆつ}というか、パーティーで恥をかかないとか、外国の不動産屋でうまく家を借りるとか、そういうことがコミュニケーションなら、それでいいし、効率的だ。しかし異文化コミュニケーションなるものを目指しているのは、そういうことなのだろうか。

そもそも、文化って何なのだろう。そう簡単に、文化が同じとか違うとか、言えるのだろうか。

外国語で自国の文化を説明する、というのは、外国語のスピーチコンテストのテーマの一つで、おそらくそれも異文化コミュニケーションということなのだろう。外国語を学ぶには、相手の文化を理解するだけではだめで、自国の文化を相手に説明できるようにになってこそ、真の国際人になれる、というのも、よく耳にする。しかし、自国の文化って、そんなに簡単に説明できるのだろうか。まさか、日本人は生魚をよく⁽³⁾たべますが、羊の目玉をたべることはすくなく、なんてことじゃないと思うし、日本人はギリニンジョーを重んじます、ということでもないだろう。

書店に行くと、日本論や日本人論は一つのジャンルをなして、書棚の少なからぬ部分を占めている。平積みされてフェアのように売られていたりする時もある。需要があるからで、それは今述べたようなことと関わっているように感じられる。書物でなくとも、新幹線の車内誌や飛行機の機内誌に、日本文化論がらみの連載記事はどうやら欠かせないようで、旅のつれづれにその手の文章に触れることも少なくない。⁽⁴⁾何かのPR誌でも、ちょっと教養めいた装いを凝らそうとすると、やはり比較文化論のようなものが登場することになる。日本を語ることについて、あるいはそれを読むことについて、人々は熱心だ。もちろんその中には面白いものもあれば、千篇一律のものもあって、ひとくくりに論じるのは乱暴なのだが、あえて言えば、日本を語るこれらのことばにとって、日本という存在はあまりに自明のこのようであるらしく、そもそも日本は語りうるものなのか、日本を語るとはいったいどういう行為なのかという点については、あまり自覚的ではない。もちろん、文化なるものは語りうるのか、という問いも眼中になさそうだ。

一方で、日本を語るという行為、文化を語るという行為そのものの意味について論じた書物や文章も、じつは一つのジャンルをなしている。日本の伝統なるものは、た⁽⁵⁾かだかこの百年二百年の間に創られたものである、日本を語る言説はそれらの虚妄を^{きやもう}隠蔽^{いんべい}するために再生産されつづけている、日本を統一された純粋な存在として見なし、そこにアイデンティティを求めるやり方は、日本文化論がいかにかに政治的言説であるかを示している、等々。国民国家論やカルチュラルスタディーズ、あるいはポストコロニアリズムといった方法論を標榜^{ひょうぼう}することもあるし、そういう旗印^{はたじるし}は関係ないと言う書き手もあるだろうけれども、こうしたことばがやはり一つのみとまりをなして、互いに参照し合いながら語られていることは事実だろう。機内誌やPR誌で目にすることは少ないが(たしかに旅のつれづれにはあまり向かなさそうだ)、これも大きな書店に行けば一定の場所を占めている。修士論文や博士論文のテーマとしても、単純な日本文化論よりもずっと論文らしく書けると思われるのか、人気のようだ。

生産と消費のサイクルがそれぞれ別で、互いに噛み合うことがない。片方のジャン⁽⁶⁾ルの読者はもう一方のジャンルの読者にはならない。書く方も、むろんそうだ。奇妙な光景ではないだろうか。

語ることばをただ語るにまかせるだけでなく、そのことばを語るとはどういうこと

なのか、常に捉えかえすことは、大切な仕事だ。その意味で、日本の文化や伝統なるものが、近代以降の発明や発見であることを強調することは間違っていない。とはいえ、日本なるものは虚妄なのだ、と切り捨ててしまっていて終わりかと言うとそうではないだろう。発明や発見を強調する人が、そうした誤解を望んでいるとも思えない。第一、そうした切り捨て方をするだけでは、日本論や日本文化論や日本人論は、われ関せずとばかり、相変わらず生産と消費のサイクルを止めることはない。

それを解決せねば、という使命感からではないけれども、ことばが閉域をなしているように見ると、そこに別のことばを投げこんでみたくもなる。時には、ナイーブな——幼稚にも見える——問いかけも必要ではないか。日本を——それが幻想であるにせよ——意識するとはどういうことなのか、人々は、どういう時に、どういうかたちで、日本なるものを意識したのか、意識するのか、語ったのか、語るのか。こうした問いは、日本文化を自明としてしまっている論や、その虚妄を衝く論の、さらに前提となるような問いかけだろう。

私たちはすでに日本を語ることばに囲まれているし、それを完全に離れて思考することは難しい。日本なるものを意識することは、それが近代の産物だと宣言されても、無くなるわけではない。文化とはいったい何なのかと問いかけても、文化という観念にすっかり浸ってしまっているわが身が鏡に映るばかり、ということにもなりかねない。けれども、鏡を見て悦に入るのも、鏡を割ってしまうのも、どちらもしたくはない。

そこを出発点として、薄皮を剥ぐように、日本という意識のありかを一つ一つ見定めること。この本で行いたいのは、そうした作業である。それは、日本を語ることばを捉えかえす上で、決して瑣末な作業ではない。むしろそこからはじめなければ、鏡に映る姿を変えることなどできないのである。

(齋藤希史編『日本を意識する—東大駒場連続講義—』より)

注

千篇一律：みな同じようでおもしろくないもの

虚妄を隠蔽する：うそをかくす

標榜する：目標を示す

旗印：行動の目標として示した主義・主張

瑣末な：小さな、重要ではない

問1 下線部 (1) 「異文化コミュニケーションなるものができるらしい」という表現は、筆者のどんな意図を表していますか。

- A 異文化コミュニケーションそのものを強調したい
- B 異文化コミュニケーションとともに他にいろいろなコミュニケーションがあることを言いたい
- C 異文化コミュニケーションと一般に言われている内容に疑問を持っていることを示したい
- D 異文化コミュニケーションは徐々にうまくできるようになっていくのだと主張したい

問2 下線部 (2) 「文化の帽子」は、何を意味していますか。

- A いろいろ集められた文化
- B 互いにとりかえられる文化
- C 必要なときに見せる文化
- D 固定された文化

問3 下線部 (3) で、筆者が言おうとしているのはどんなことですか。

- A 日本人や日本文化の特色は、この例にあげられたものが中心だが、他にもある
- B 日本人でも生魚を食べない人がかなりいるし、「ギリニンジョー」を考えない人も多いので、この例はまちがっている
- C 日本人あるいは日本文化は、よく言われているような型にはまった例をあげても説明にならない
- D 日本人あるいは日本文化は、外国との交流で多様になったことを説明しなければならない

問4 下線部(4)はどんな意味ですか。

- A 旅の途中で、たいくつなとき、乗り物においてある雑誌で日本文化論の記事を読む
- B 長い旅が続いていると、必ず乗り物においてある雑誌の日本文化論の記事を読みたくなる
- C 旅をするとき、乗り物においてあった雑誌を持っていき、日本文化論の記事をいつでも読めるようにする
- D 旅の乗り物の中で、日本文化論の記事を手渡されて読む

問5 下線部(5)は、どのようなことを言おうとしていますか。

- A ここ百年二百年の間に形成された日本文化が伝統の中心と考えられる
- B 日本の伝統は、ここ百年二百年の間に外国の文化と対比することで初めて意識されたのである
- C 日本の伝統を語るということはここ百年二百年の間に、ようやく行われ始めた
- D ここ百年二百年以前の日本の伝統は、まだよく分かっていない

問6 下線部(6)は、どのようなことを言おうとしていますか。

- A 二つのジャンルの論を同時に読むことは良くない
- B 二つのジャンルの論が別々に分かれたまま読まれている
- C 二つのジャンルのうち、よいものを読者が選ぶのは難しい
- D 二つのジャンルから、どちらか読みたい論を読者が選ばばよい

問7 下線部(7)「それを解決」するため、どんなことをすべきだと筆者は言っていますか。

- A 日本を語ることはが閉域^{へいいき}をなしていることをみんなが認識する
- B とにかく解決しようと言う使命感をみんなが持つ
- C 日本を語る自分自身の姿を鏡で見て悦^{えつ}に入るか、鏡を割るかのどちらかをする
- D どういうときに自分自身が日本を意識し、語るかを考える

問8 文章全体を通して、筆者が言いたいことは何ですか。

- A 日本を語ることは、異文化コミュニケーションがどれだけ良くできているのかを語ることではないか
- B 日本を語るためには、いろいろなジャンルの本や雑誌を機会があるごとに読むべきではないか
- C 日本を語るということは、自分自身が日本について、どんなときにどのように意識するかを問いかけることから始めるべきではないか
- D 日本を語る時、日本文化を自明のものと考える立場と、日本を語る意味を考える立場とに分かれてしまうのはしかたがない

Ⅲ 下線部(1)～(10)の漢字の読み方をひらがなで、下線部①～⑥のカタカナの部分
部分を漢字で、それぞれ解答用紙に書きなさい。

- 1 子どもたちは公園にいるメズラしい鳥やサカナを見て騒いでいた。
① ② (1) (1)
- 2 日本の家は、天井があまり高くなく、夏は本当に蒸し暑いものです。
(2) (3)
- 3 その医者は、椅子から腰を上げると、エキへ向かう用意を始めた。
(4) ③
- 4 アネが、その赤いイトを引くと、箱からおもちやが出てきた。
④ ⑤
- 5 形式的な挨拶は抜きにして、さっそく我が社が誇る施設を見ていただきましょ
(5) (6) (7)
う。
- 6 友達にカした自転車が壊れた原因は謎である。
⑥ (8)
- 7 細かい砂の粒がたくさん腕についている。
(9) (10)

Ⅳ 次の文章を読んで、あとの問1～問10に答えなさい。答えは、A～Dの中から
もっとも適当なものを一つ選んで、その記号を解答用紙に書きなさい。

私の家にはいろいろな人が来る。別に私が接待につとめるのではなく、お世辞がいい
わけでもない。しかし長年の間に来る人が選択され、私のところに来てもつまらぬ人
は来ぬようになり、つまる人ばかりが来るようになったのは自然の理であろう。
(1)

私はこれらの人々を私のコレクションであると言っている。私は硯や墨がすきで集
めるともなく集まったが、私の友達も集めるともなく集まっている。私の集めた硯
や墨はどれ一つとっても私にとって興味があり魅力があるのだが、私の家に来る人々も
まったくそうである。

コレクションあつかいにしたと言って怒ってはいけない。ゲーテの著述だって、「論語」だって、トルストイの小説だって、自分の家の本箱に来れば自分のコレクションに違ひなからう。そういう私自身も人のコレクションになっているかもしれない。

(2)
私のコレクションは画かき、彫刻家、小説家、舞踊家、俳優というような芸術関係ばかりでなく、医者もいるし、銀行の頭取もいるし、大工も百姓もいる。そしてこれが長年の間に私の生活のテンポにあったものだけに自ら選択されたものだから金銭で^{あがな}購えぬ貴重なものだ。^{おそ}畏るべきもの、^{こっけい}尊敬すべきもの、豪華なもの、滑稽なもの、幽美なもの、堅実なもの、いろいろの感銘をもっている。

テンポと言ったがこれらは生きものであるから、生きているかぎりテンポをもっている。変化をもっている。その人の生活が生き生きして、実際に自然なり人生にぶつかっているから話に感じがある。感じのない話くらい退屈なものはない。何時に先生はお起きになりますか、とか、あの作品をどういう気持ちでおかきになりましたか、とか、こういう質問の連続をきいていると、何か身体からしぼられるような気がする。私の妻は、子供が大きくなり、乳の出が少なくなってくる頃、乳を無理に吸われるつらさを言ったことがあるが、私もそういう訪問客にあうと肉体的につらくなってくる。

こういうのはテンポにあわないと言うべきだ。そして始末の悪いことに、⁽⁴⁾そういう人は決して悪人ではない。善良なお人よしに多い。ただエネルギーが消極的で、常識のそとに出られないものだろう。常識に感銘はない。みな常識の程度に暮していたら、こんな退屈な世界はない。

私は好ききらいがはげしいと言われるが、理由は簡単なのである。生き^{がい}甲斐を感じて生活をしている人の話と、つまらなく生きている人の話とを区別し、それによって友達知人を自然に区別してしまうのである。だから私の氣むずかしさの原因も知ってみれば簡単な事に違ひない。⁽⁵⁾

私は蛇がきらいだ。道を友人とあるいていても、一番先に蛇を見つけるのは私だ。見つけるというよりも蛇を感じるのだ。写生に行つて^{くさむら}草叢の路で蛇にあつて引きかえすような事は度々あつた。蛇がきらいな話をしていると、^{ぼうず}坊主がまだ修業が足りないと云つた。私をひやかして言うのかと思つたら、真面目で言っているのである。またこんな大きな^{たい}鯛をつりおとしたと言つたら、そんなに大きくはない。何寸位^{すん}であつたと正確に言つたものがある。これも馬鹿馬鹿しい。

これらはみな感じを言っているのであって、それが眼目である。感じは計量できるものではない。何尺何寸、何貫匁とはかっているうちに感じは逃げてしまう。アカデミックな美術がつまらないというのもそれだ。

私の家の庭先の堤には薄が生えていた。家を建てた当座、それが一列に銀色の花をなびかせ、ちょうどその頃が仲秋名月の晩になる。あわただしい歳月が流れて、そのうちに篠竹がどこからともなく勢力をましてきて、堤一面に繁茂して薄は影を消してゆくようである。竹は生活が旺盛で、薄が負けるようである。竹は庭中に根をはってきて軒下まで根が来た。

庭の竹は切るが、こう繁っては堤の竹は素人には切れない。切った竹もどう始末したものだろうかと思っていると、私のところへ来る農家の主人が切ってくれた。十二月であったから竹を切るにもよい時期である。切った竹を軽い斧で枝をはらって次々と見事に料理した。これをとっておいて胡瓜畑につかうと言った。庭先が明るくなり、庭前の麦畑がはっきり見え、彼方の裸林も自分の庭先のように見えてきた。それでも暮の沢庵をつけねばならぬ忙しい時節に三日もかかった。

茶をのみながら、その主人は言った。竹が見えてきましたね。この農家の主人は馬鈴薯の話をして私を飽かせない。そしていつも訪ねてきて私のコレクションになる時よりも、百姓ではたらいっている姿がいかにも素直で自然でたのもしい。あまり竹が繁って、竹の明暗はくらくつぶされていたのである。竹が隣同士殺しあっていたのである。今やその言葉通りすがすがして竹は見えてきた。風が吹けば風にしたがって美しい姿をみせる。いいことを言うと思っていたが、この人は歌をつくるのである。

この人は東京に生まれながらまだ帝劇へ行ったことがないというので、我々夫婦で招待した。カーキ色のつめ襟で、がさがさ音のする風呂敷包をもってきた。席に腰をおろしてバレエの夢のようなワルツをみた。この人は風呂敷からアンパンを出して我々に差出した。荻窪まで家内をやって買わせましたと言った。我々はアンパンを食べながら瀕死の白鳥を見た。帰りに、女房がちょうどよい機会だから御一緒に写真をとって来たらよいと言いましたが、と言った。これも我々には奇想であって、私も女房も思わずにこにこした。

(中川一政「庭の眺め」より、一部省略した)

注

尺寸、貫匁：メートル法以前の単位、尺・寸は長さ、貫・匁は重さの単位

仲秋名月：旧暦八月十五夜の月のこと、古くから名月を観賞する習慣がある

沢庵：大根のつけもの、冬のはじめにつけ込む

馬鈴薯：じゃがいも

帝劇：東京にある帝国劇場の略称

アンパン：中に甘い小豆の入った菓子パン

瀕死の白鳥：バレエの演目の一つ、瀕死は、「死にかかっている」の意

問1 下線部 (1) は何を言おうとしていますか。

- A 接待の好きな人だけが来るようになった
- B お世辞の嫌いな人だけが来るようになった
- C 筆者から選ばれた人だけが来るようになった
- D 筆者にとって興味のある人だけが来るようになった

問2 下線部 (2) は何を言おうとしていますか。

- A 私の本でも、本箱に入れば誰かのコレクションになるわけである
- B 私も、誰かにとって興味や魅力ある存在かもしれない
- C 私もゲーテのように有名だから、コレクションになれるはずだ
- D 私自身も、自然に集まって来た道具と同じ存在かもしれない

問3 下線部 (3) 「話に感じがある」の「感じ」に最も近いのは次のうちどれですか。

- A 心をひるがえすこと
- B 心にとめること
- C 心をつかむこと
- D 心がみだれること

問4 下線部(4)の「始末」に最も近い意味の「始末」を使った文はどれですか。

- A あの二人は会えばけんかばかりして、全く始末に負えない
- B 娘はあれで案外始末屋だ
- C はじめは強気だった男も、最後は泣き出す始末だった
- D 勤務中に事故を起こして、始末書を書くことになった

問5 下線部(5)「私の気むずかしさの原因」はどこにあると筆者は言っていますか。

- A 人の好ききらいがはげしい性格
- B 善良なお人よしは、わがままな自分のテンポにあわないこと
- C 常識的な話と退屈な話を区別して考える習慣
- D 人生にぶつかっている人とエネルギーが消極的な人を見分けるくせ

問6 下線部(6)の「それ」が具体的にさしている例はどれですか。

- A 蛇を見ても恐がらなくなるように、真面目に修業すること
- B 鯛をつりおとしたくやしさを、おおげさに伝えたこと
- C 写生に行った時、蛇を見て思わず引き返したこと
- D つりおとした鯛の大きさを、馬鹿馬鹿しいほど正確に言うこと

問7 下線部(7)で「アカデミックな美術がつまらない」のはなぜだと筆者は言っていますか。

- A 美術を知識で説明しても、美術本来のおもしろさは伝わらないから
- B 本来美術はアカデミックなものとは無縁なので、説明自体に無理があるから
- C 美術を学術的に見ることは、かえって美術の持つ魅力をそいでしまうから
- D つまらない美術は、アカデミックな感動さえ与えないものであるから

問8 下線部 (8) はどのような意味ですか。

- A 竹が少なくなったので、風にそよいで動くだけの空間ができた
- B 庭の遠近がはっきりわかり、その中で竹の美しさがひきたつ
- C 竹の明るいところと暗いところが、あざやかに対比してみえる
- D 竹が殺し合いをやめ、今は一本一本生きているのがわかる

問9 下線部 (9) はおかしみのある表現です。そのおかしみはどこから来るものですか。

- A 深刻なバレエと庶民的なアンパンは、おかしな取り合わせであること
- B はじめてのバレエなので、はりきってアンパンをおみやげに持ってきたこと
- C 夢のようなバレエを見ているときに、現実的な音を立ててアンパンを出したこと
- D 劇場でバレエを見ながら食べ物を食べることは、ふつうは禁止されていること

問10 下線部 (10) は、何を言おうとしていますか。

- A この人の言うことがどう考えても変なので、あきれて笑うしかなかった
- B この人のすることは突飛なことばかりなので、ふきだしてしまった
- C この人が素直な気持ちで生きているのが心地よく、つい顔がほころんだ
- D この人が無理をしているのが気の毒で、奇妙なつくり笑いをした